

作品名称	情緒障害児短期治療施設
------	-------------

整理番号	14
------	----

□応募建築物の概要

- 所在地 北海道伊達市松が枝町 243 番地 1
- 主要用途 情緒障害児短期治療施設 ●構造及び階数 鉄筋コンクリート造 2階建
- 敷地面積 14590.00 m<sup>2</sup> ●建築面積 1604.62 m<sup>2</sup>
- 延べ面積 2536.49 m<sup>2</sup> ●建設費  円
- 竣工年月日 2006年 3月 15日

□建築主

- 住所 〒052-0012 北海道伊達市松が枝町 243 番 1
- 氏名 社会福祉法人クラブ

□設計者

- 住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町 2-7-5 メイトウビル 4F
- 氏名 藤本社介建築設計事務所

□施工者

- 住所 〒060-8617 北海道札幌市中央区北 1 条西 2 丁目札幌時計台ビル
- 氏名 清水建設株式会社 北海道支店

□連絡先

- 住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町 2-7-5 メイトウビル 4F
- 氏名 藤本社介建築設計事務所
- TEL. 03-5351-8136 FAX. 03-5351-8172 E-mail kojiaoki@poppy.ocn.ne.jp

□企画の特徴（地域懇談会の開催等、特に配慮した点）

情緒障害児短期治療施設とは、さまざまな理由によって心に負担を負った子供たちが集まり、共に生活する中で徐々に自分たちの生活を取り戻していくための施設である。厚生労働省が 2010 年までに全国全ての都道府県に情緒障害児短期治療施設を設置する方針を明らかにしたことを背景に、北海道初の施設として計画され、前進となる道立有珠保健学園の約 50 年の歴史と伝統を受け継ぎつつ、今までにない新しい施設のあり方が求められた。

□設計の特徴

情緒障害児短期治療施設には、大舎型と小舎型というふたつの対照的な型がある。大舎型は長い廊下に面した形で、木造の子供の面倒を見やすい反面、スタッフと子供たちの関係が疎になりがちである。小舎型は小さな住宅スケールの分棟型で、スタッフと子供たちの親密な関係を表現する一方、マンパワーが分散してしまう問題がある。ここでは小舎型の親密な空間の利点と大舎型の集約のメリットを両立して新しいタイプの情緒障害児短期治療施設を考えた。50 人の定員を 3 つのグループに分け、それぞれに親密な大きさのリビングを与える。リビングは、個室群、トイレや洗面、そしてスタッフルームなどの 5、6 個の箱で囲まれた空間であり、それら 3 つのユニットを、スタッフルームをヒンジの中心として共有することで、2 層にわたって組み合わせる。スタッフルームは 1 ヶ所に集約され、3 つの適度な親密さの生活空間が分散して配置されるのである。機能的にはスタッフルームがひとつの中心となるが、しかし体験的には中心は決して視覚化されない。子供たちにとっては自分たちのリビングや個室が中心となるであろう。無数の中心を持つこの建物ならではの機能性である。もうひとつの特徴は、このプランが必然的に持つ「隠れる場所」である。箱と箱の間に生まれたイレギュラーなアルコーブは、リビングと連続しながらも文節された小さなスケールの場所である。ここで暮らす子供たちが何よりも他者との関係や距離感の回り方に敏感になっていることを考えると、離れていながら繋がっている関係によって自由な距離感の選択性と偶然性を両立したこの空間は、ひとつの原型になるであろう。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

構造は鉄筋コンクリート造を採用し、壁の仕上げは内外とも同様のアクリルリシン吹付けとしている。リシンの僅かな凹凸が、箱と箱のすき間やトップライトから差し込む外光を受け止めることで、繊細で柔らかい表情を作り出している。様々な角度に振られた壁面の織りなす風景は、これからも子供たちの日常に多様性と豊かさを与えることになるであろう。また、天井には手摺と同寸法のルーバーを、単一方向に揃えて設え、ランダムに配置された箱の存在感を強めている。ルーバーは塗装による反りを考慮し、MDF 材を採用している。さらに、床には幅広のバイン材三層フローリングを、手摺には道産材トドマツをそれぞれ採用し、オイルステインで色調を整えてはいるものの、クリヤ系の仕上げに留めることで、漆喰調の抽象的な白い壁面に対して、木質特有の暖かさを付加している。箱と箱の間の開口部は、堅持を躯体にのみ込ませることで、上記のような壁面の素材感が内外に連続して感じられるよう配慮したのと同時に、ひび割れ誘発スリットとしての役割を担っている。大変難しい施工内容ではあるが、非常に高い精度により実現されている。

□完成後の地域への貢献度等

情緒障害児短期治療施設は北海道初の施設であり、その構成の新しさから、医療・福祉業界においても注目を集めている。事実、入所している子供たちの症状も、以前に比べ随分と落ち着いたようである。また、隣接する精神科のミネルバ病院と、入所児童が通う星の丘小中学校との密な連携により、この地が「医療・教育・福祉」という三者のネットワークを全道全国に発信する拠点となればと願っている。

作品名称 情緒障害児短期治療施設

整理番号 14



Residential treatment center  
for emotionally disturbed children

作品名称 情緒障害児短期治療施設

整理番号 14

